

君のための図書館

「君」という字は「コ」「ロ」「ナ」を組み合わせてつくることができるため「コロナ」という意味がある。またそのままの「きみ(あなた)」という意味がある。1つ目の「コロナのための図書館」はコロナ対策がされていることを表している。2つ目の「きみ(あなた)のための図書館」はこの図書館はコロナのためだけのものではなく、全ての人がいやすくて全ての人のための図書館となっていることを表している。今回はこのような意味をこめた ウィズコロナ・アフターコロナに対応した図書館を提案する。

外観

一目で図書館だとわかるように本の形をした外観にした。本が少し開けているのは、これから新しい時代 物語が始まるという「希望」の思いがこめられている。

返却口

人との交わりが最少限になるように外に返却口を設けた。外に返却口があるため閉館中でも本を返却することができる。

返却後の本のための消毒室

紙には新型コロナウイルスの菌が長時間残存するため本からの感染を防ぐために消毒室を設けた。返却された本は数日間消毒室におき、菌がいなくなったら保管庫に戻す。この消毒室は新型コロナウイルス以外の感染症が流行したときにも役立つことができる。

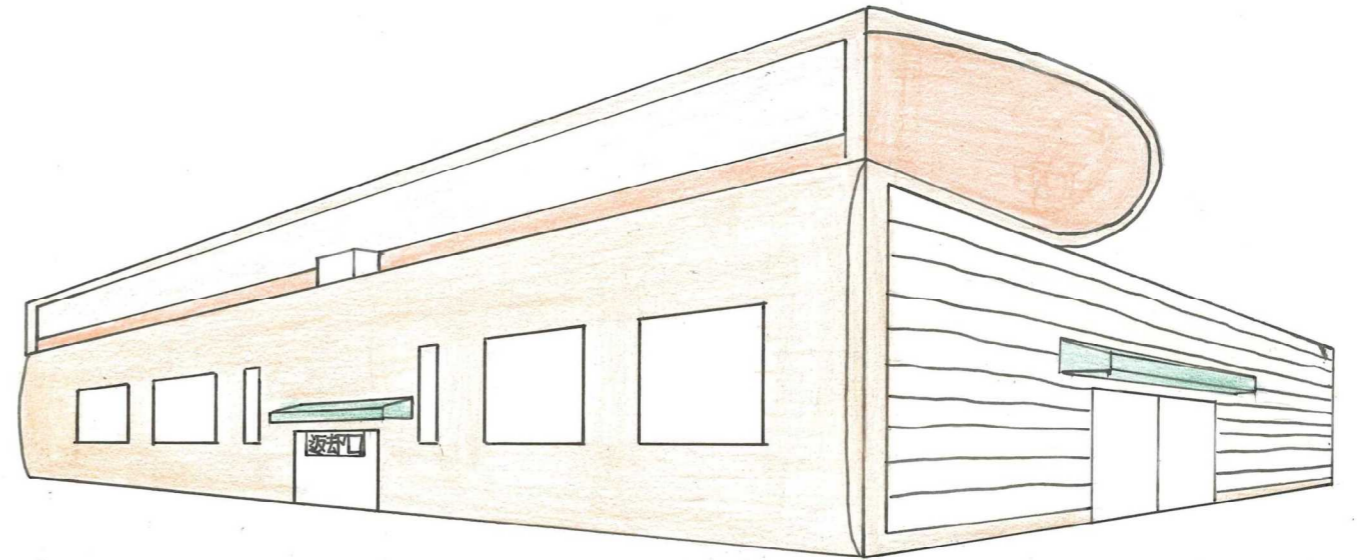
左右対称の平面構成

換気や消毒のための入れ替えを行うことができるように 左右対称の平面構成とした。内装の工事をする場合 左右で工事の時期をずらすことで、一方の部屋を使用することができ、通常通りに営業をすることができる。

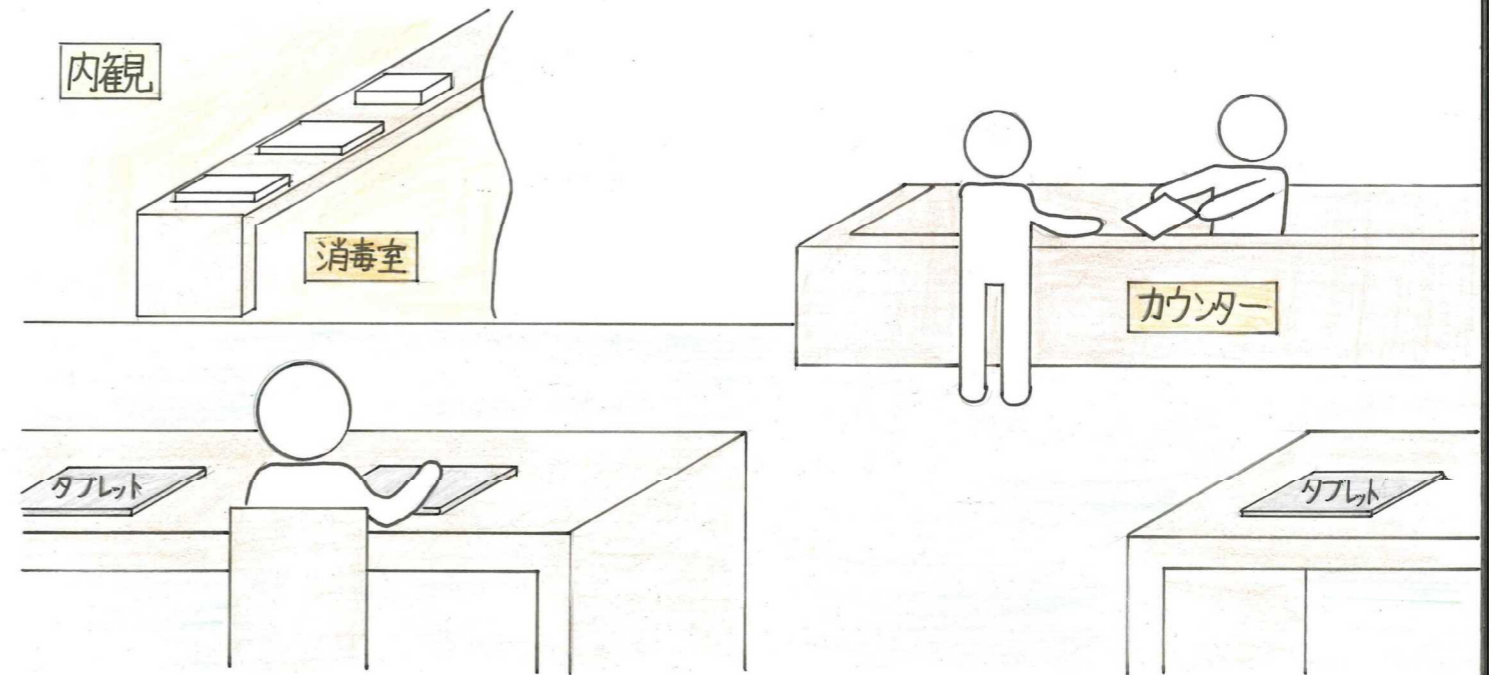
タブレットに本の情報をまとめる

本は消毒しにくい。タブレットは消毒しやすい。タブレットに本の情報をまとめた。利用者が館内を歩き回らなくてよくなるため感染拡大を防ぐことができたり、利用者の負担を減らすことができたりする。借りたい本があればタブレットのボタンを押し、カウンターから借りることができる。見たい本がない場合でも、タブレットに本の情報があるため返却を待たなくてよい。職員の負担を減らすことができる。

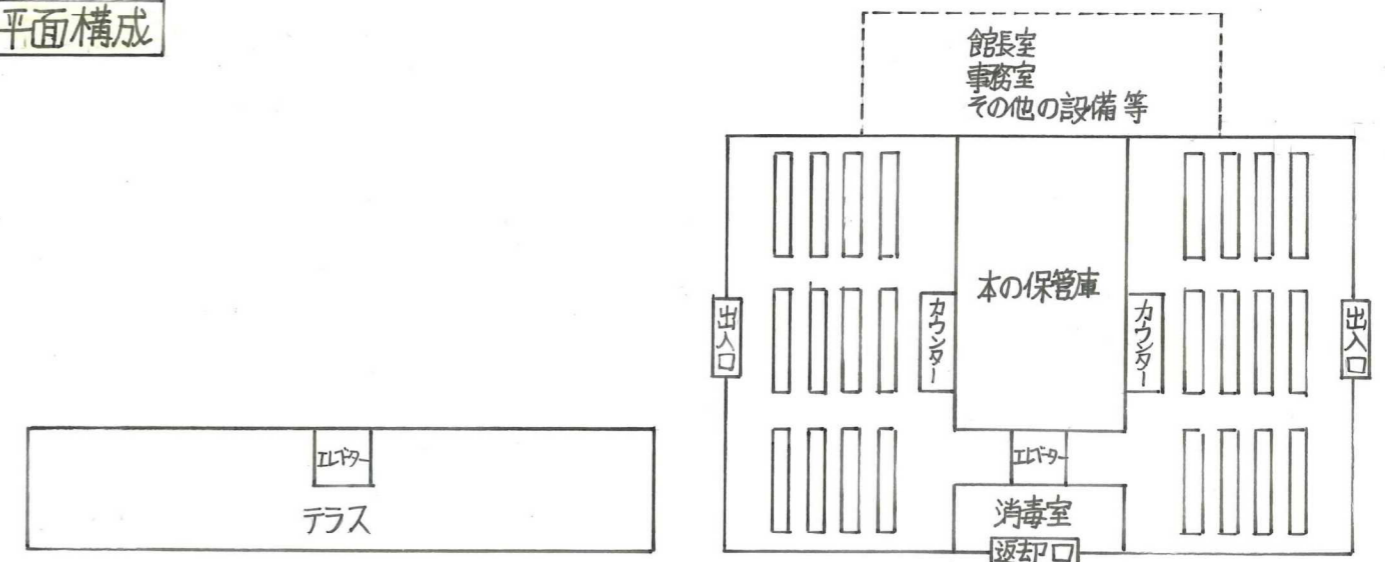
外観



内観



平面構成

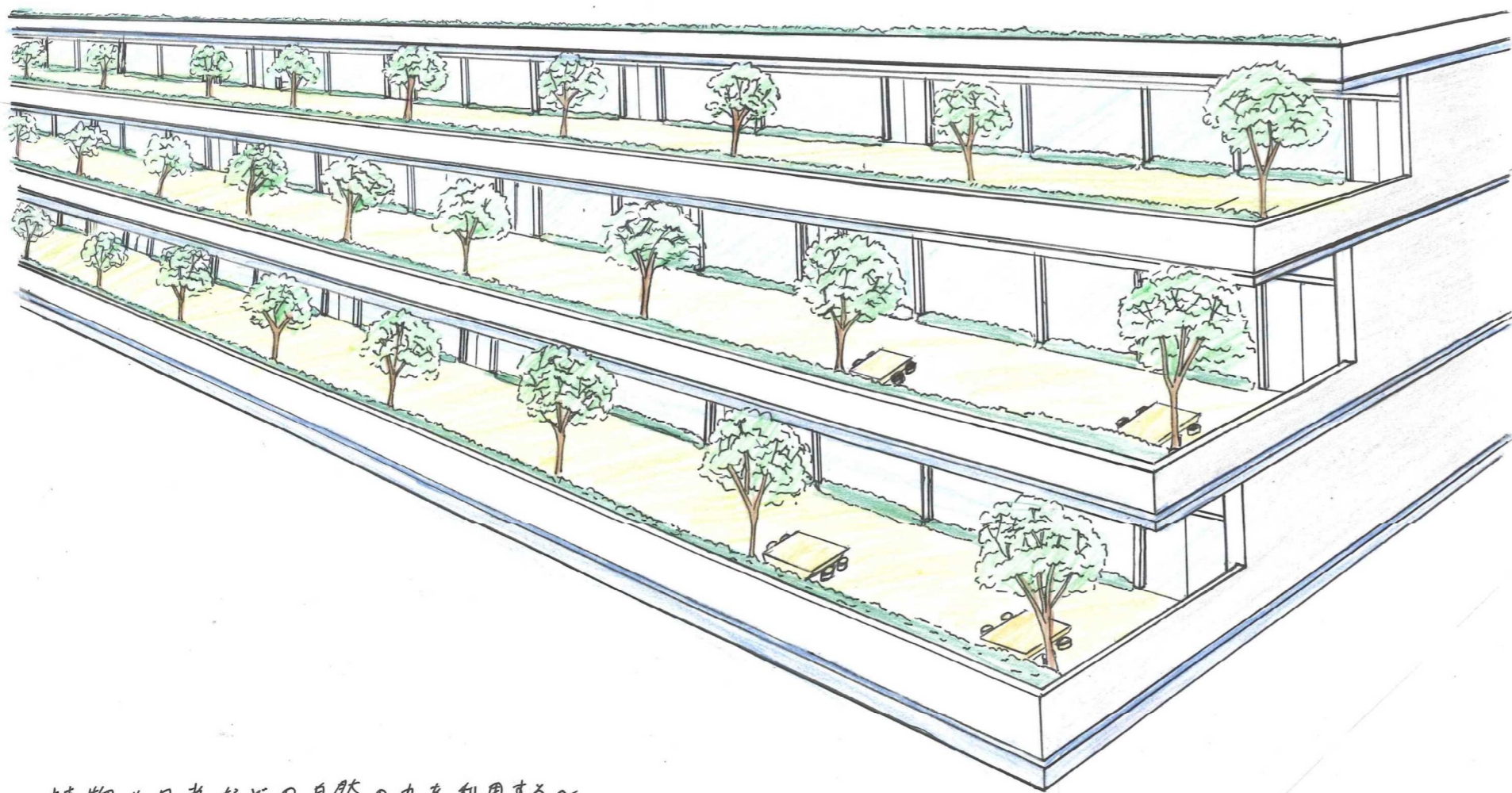


Nature Library

植物と日光の効果により、より快適に読書や勉強ができ、心身にやすらぎを与えてくれるような憩いの図書館。

良い環境で、良い空間で、良い時間を過ごそう！

一般的な図書館は、子供からお年寄りの方まで全ての人が、たくさんの本棚が並べられ、それぞれの用途があるスペースがある、1つの広間で共用をする。図書館は公共の場で、全ての人が利用しやすい施設にはなっているが、ただ本が並べられ、用途のあるスペースがあるだけでは、図書館を利用する側にとって居心地良さはあまり足りていないだろう。図書館＝本を読む場・本を借りる場というイメージが強いだろうが、図書館にはみんながのんびりと居心地よく過ごせる役割を担うことも必要だと感じた。快適で、一人ひとりの心の健康に気遣える過ごしやすい図書館＝憩いの場の実現をさせたいと私は思った。私が考えた図書館は、緑化と日当たりを重点的にした自然を身近に感じられる図書館である。



～自然を取り入れた図書館のプラン～

→ 本のジャンルや部屋の用途に合わせて階を分けて、それぞれの階の南側にたくさんの植物を植えたバルコニーを設ける。

・いつでも気軽に外の空気を吸いながら読書ができる。
・日光浴をすることで良いこともたくさんある。

→ 館内にも観葉植物を置く。

→ 図書館を東西に長い形にすることで、より採光が取れるようになる。

→ 建物の南側を用途のあるスペースにすることで日当たりの良い空間の中で、窓の外の緑豊かな景色を楽しむ。

より自然を感じられ、心が落ち着く

～植物や日光などの自然の力を利用する～

🌿 植物による効果

- ▷ 環境を快適に保たせる ▷ 目の疲れを癒し、回復させる。
- ▷ 空気浄化効果
- ▷ 心理的効果でリラックス
- ▷ // 効果で集中力UP

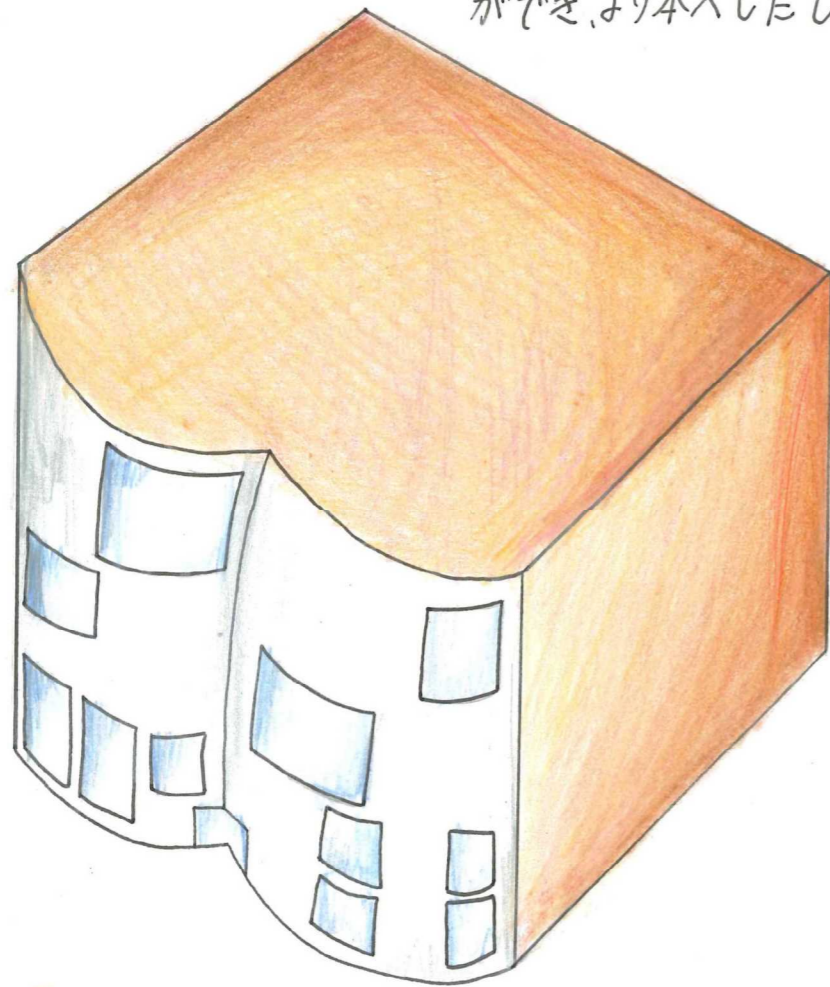
☀️ 日効の効果

- ▷ 体の中でビタミンDを作ってくれる (がん予防の効果あり)
- ▷ 良い生活リズムが維持できる
- ▷ 殺菌効果
- ▷ 採光した室内の空間に開放感を与える。

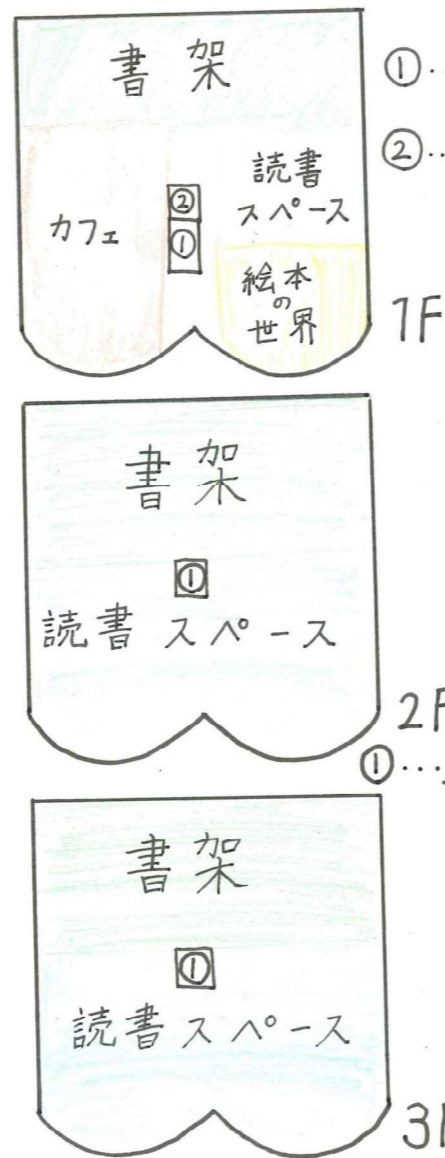
植物や日光は、私たちの健康維持・増進に欠かせない存在である。この図書館は、みんなが居心地よく過ごせる憩いの場であると共に、自然のありがたみや自然と触れ合うことの大切さを伝えることができる場にもなっていきたいと思った。

Calmly Place

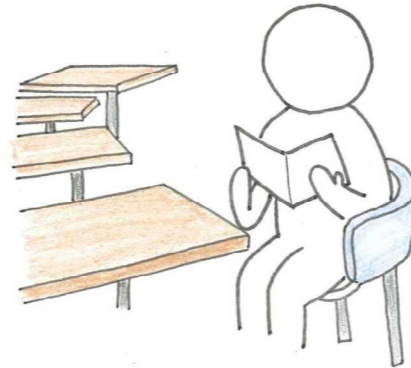
インターネットの発展と共に書籍がデジタル化し、それが主流となった現代で本への「したしみ」が失われつつある。そこで私が考えたものは、くつろぎ空間での読書である。子供に対しては館内の一角に絵本の世界観を実際に再現し、未知の本との出会い。本への興味を引かせる。大人に対しては、館内にカフェを設け、自宅のようなくつろげる空間で読書ができ、より本へのしたしんでもらう。



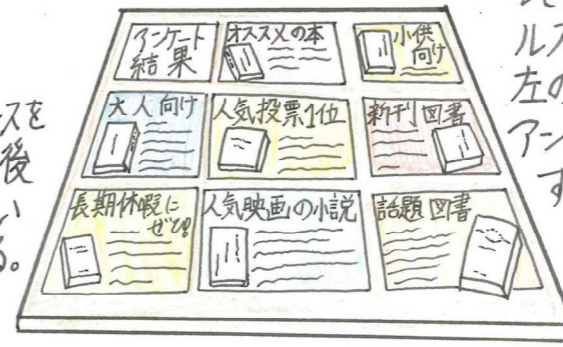
建物の外観を本のような見た目にし、窓を本の挿絵風に配置した。横200m、縦200m、高さ30mの3階建ての建物である。



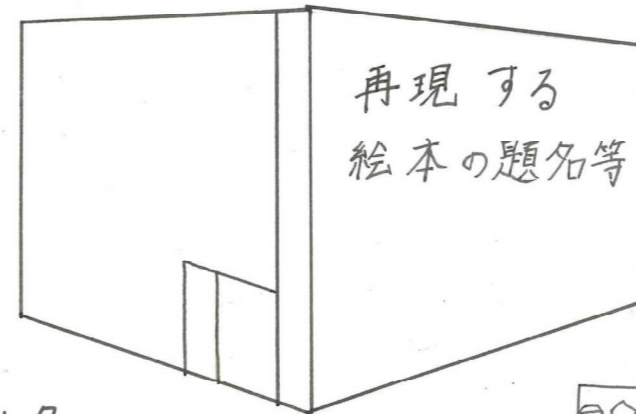
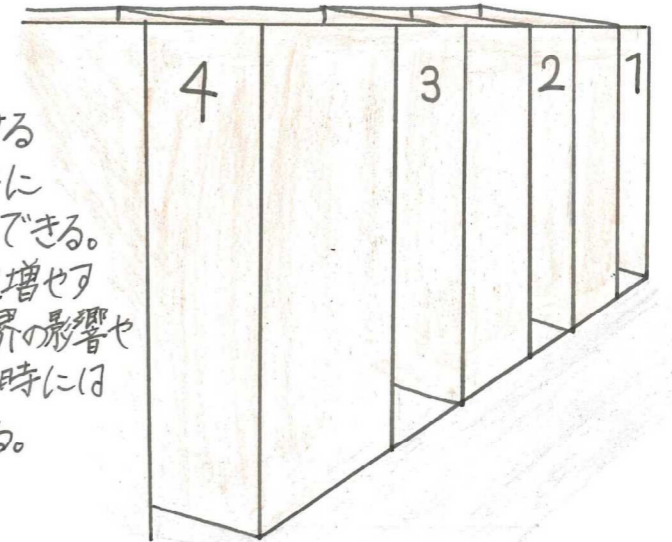
隣の机との間隔を少し広めにするこゝでソーシャルディスタンスを保ちつつ、新型コロナウイルス終息後では、周りの人の存在を感じにくい。ため、読書に没頭することができる。



個室を設けることでより読書に集中することができる。個室を狭くした理由は部屋数を増やせる点と、心理的に外界の影響や他人の干渉をシャットダウンしたい時には狭い部屋の方がいいからである。

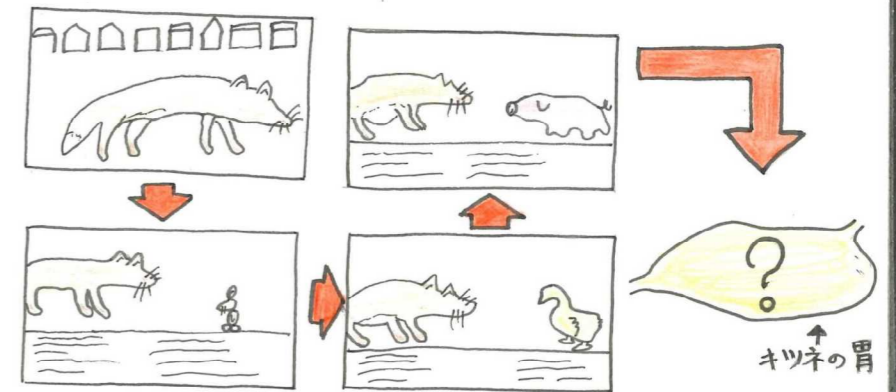


長机の一部を新型コロナウイルスが終息するまでの期間、左の図のように図書館利用者にアンケートをし、その結果を展示することで、新たな本と出会い、より本が好きになることが期待できる。

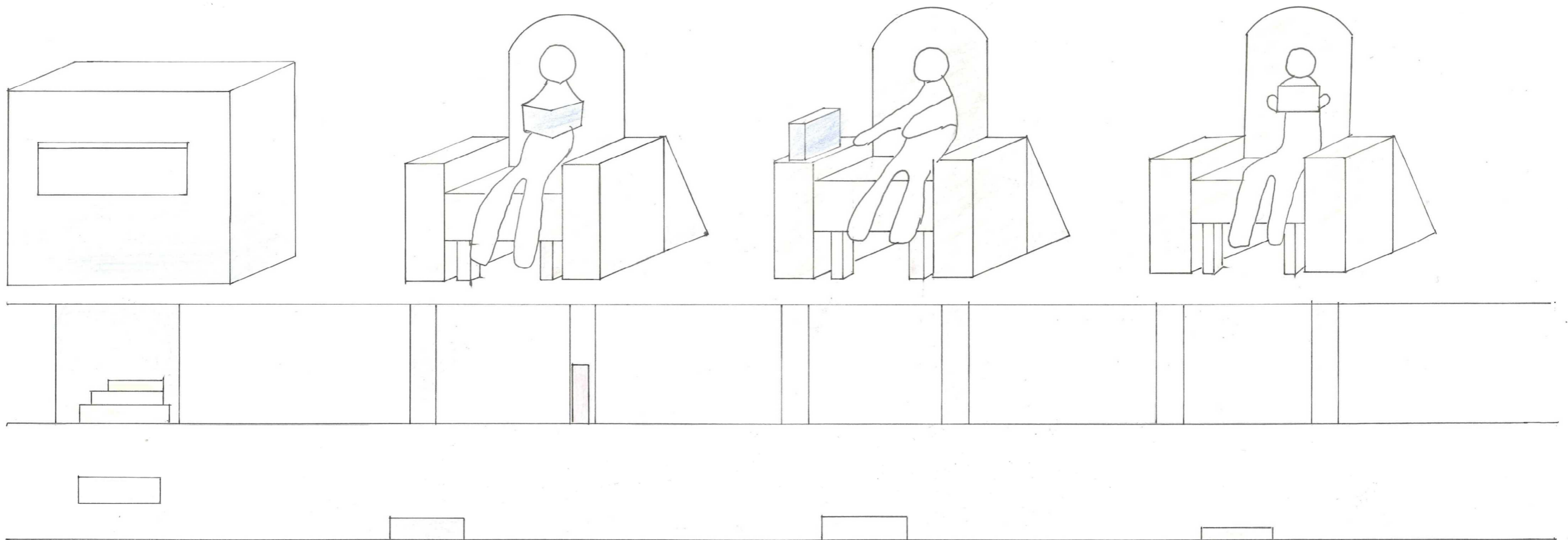


左の図は絵本の世界に入り込むためのゲートである。本を開いて立たせた状態のゲートをくぐることで、より絵本の世界に入り込む感じが増す。再現する内容のものをゲートの表紙等に描く。

ただ絵本の世界観を再現するのではなく、物語から挿絵を数枚取り、壁に貼り、子供に物語の展開を考えさせることで、子供の想像力を育てることができ、子供も楽しく本に興味をもてる。

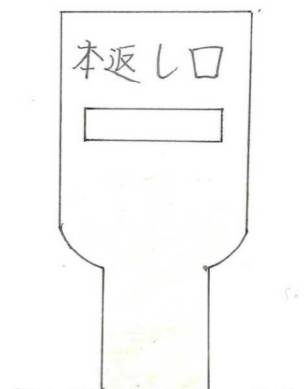


借りて驚く本の移動力



現代の図書館の課題は、本を探しても見つけにくいということが課題だと考えた。そこで、私は、席から動かずに本を見つけることのできる図書館を提案する。これを使うことにより、タブレットで本を選ぶことにより、自分のすわっている席の右側に自動的に本が地下から届く。タブレットで本を選ぶ時には、ジャンルごとに分けられていて、自分の読みたい本が見つかりやすく、今までに読んだ本の中からその人が、好きそうな本を分析して、おすすめの本として、利用者がいろいろな本にめぐりあえるようになる。あまり好きな本ではなかった場合には、自分の席の左側に本を入れることにより、自動的に本が地下のもともとその本があ、た場所へもどっていくようになっている。

- ・本を借りる場合には、自分のアカウントでタブレットに入ることにより本を借りることができる。
- ・本を返すときには、図書館で返すこともできるが、本専用のポストを使い本を返すこともできる。
- ・本はすべて地下にあるため、タブレットで借りるしかできなくなっている。



若者の図書館離れが続く今、より多くの人に図書館に来てもらうにはどうすればよいでしょうか。

僕は、図書館とジム、カフェを組み合わせた新時代の図書館を提案します。

現在、日本の高校生の約7割が筋トレをしている。しかし、ジムに行きたくても、敷居が高いと感じ、入り辛く感じてしまっている人が多いのではないのでしょうか。そこで、ジムを図書館の2階に設けることで、図書館の入りやすさがジムの入りやすさを緩和し、ジムを利用する人も図書館を利用しやすくなるようにしました。

外観は静岡県民が親しみやすいように、富士山をイメージした八角形の形にしました。



レストラン

図書館で本を読んでお腹が空いてしまった時や、ジムで運動をした後にピッタリなレストランです。

ジム

老若男女問わず利用することのできるジムです。様々な器具が用意されており、気持ち良く汗をかくことができます。

図書館

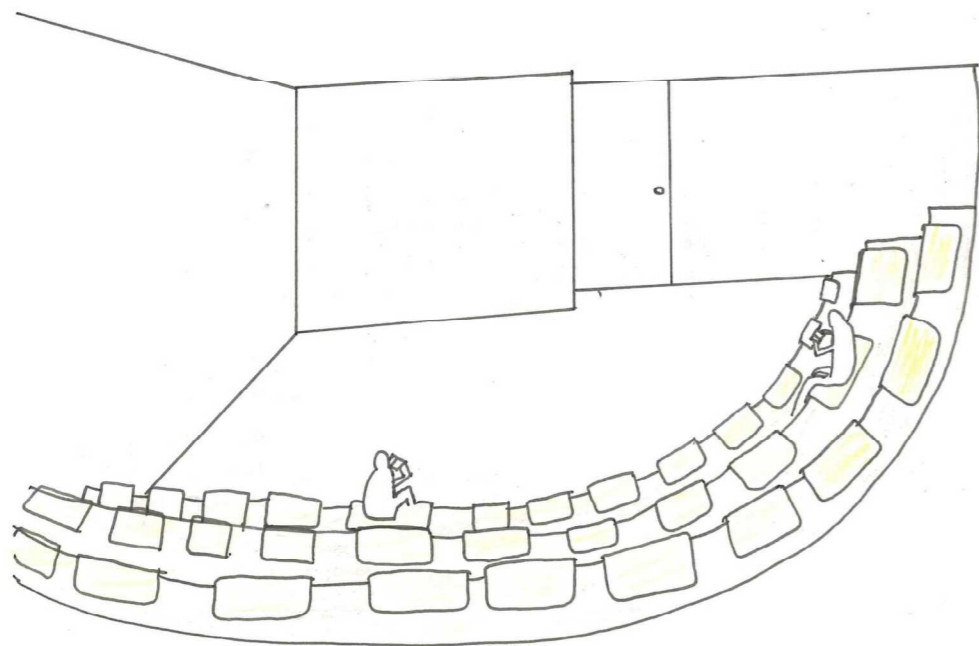
参考書から絵本まで、幅広いジャンルの本が用意されています。館内にはピアノもあり、演奏することができます。

富士山型マッスル図書館

温泉図書館

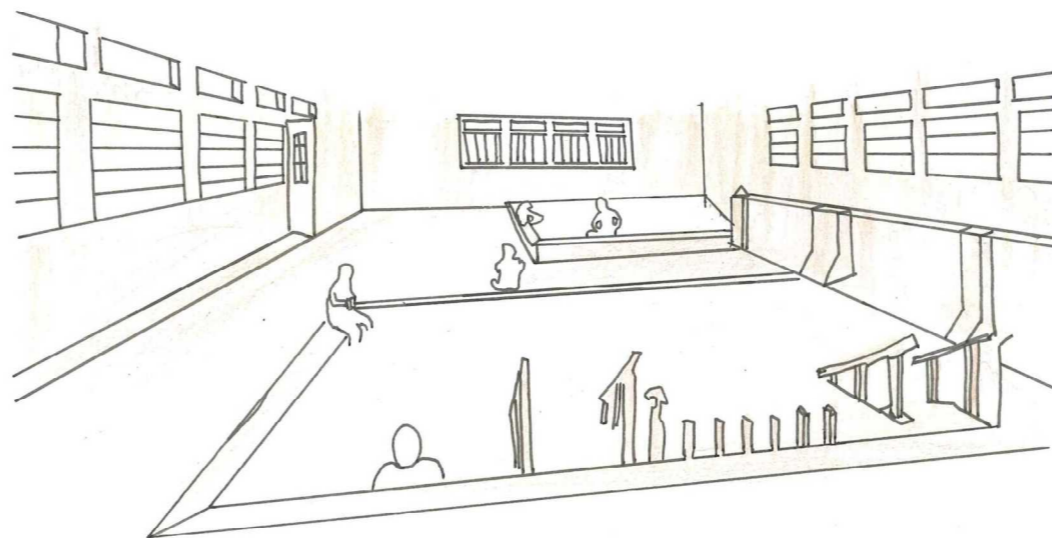
コンセプト

今の多くの図書館では、あまり多くの人を利用せず、図書館は入りにくいというイメージがあり、探すのも大変なため、利用することが少なくなっていると考えます。そこで、温泉施設を設けたら、たくさんの方が来るのではないかと考えた。しかし、そのままの本では紙が濡れてしまうので、耐水性のあるユポ紙を使うことにした。温泉施設には、様々なお湯があり、サウナもついている。お湯には、温度差をつけ、長時間読書したい場合と、短時間で読書したい場合で、場合分けすることができる。外の湯からは富士山が望め、風景を楽しみながら読書することができる。



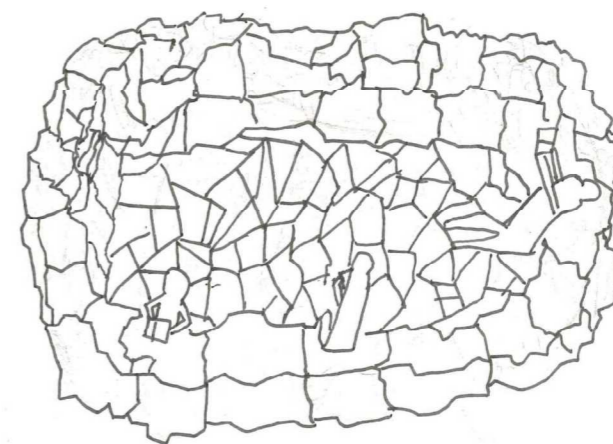
大浴場

大浴場には、約40℃のお湯と約36℃のお湯が並んでいる。内壁をヒノキ張りにする事で、木のぬたかみを感じられ、リラックスすることができる。そのため、読書のためにお湯につかることができる。また、大浴場での交流も生まれやすくなるため、図書館に来る新たな目的を見つけられるかもしれない。



外湯

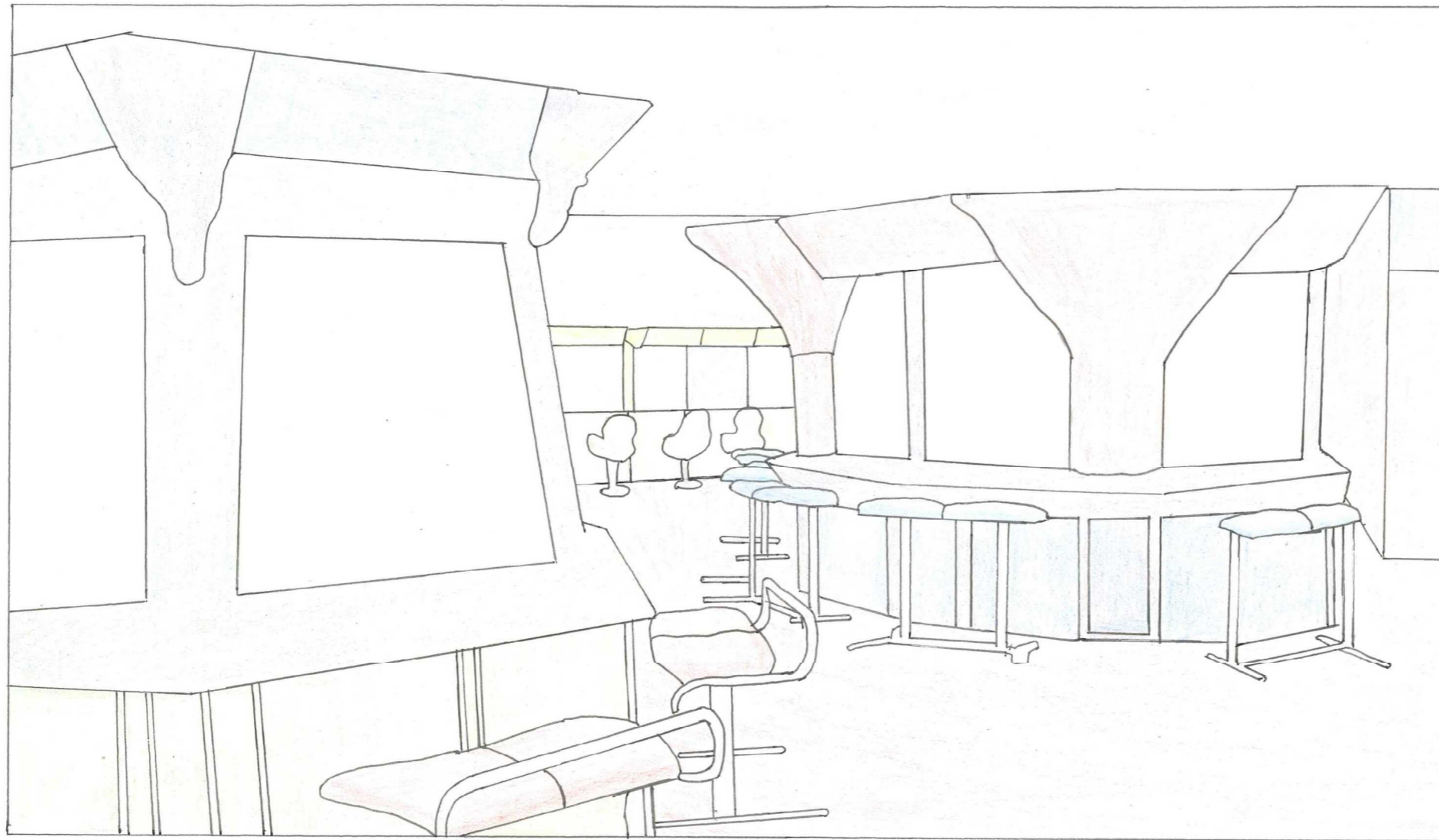
外湯のお湯の温度は約38℃で、とても入りやすい温度になっている。まったりと外の景色を楽しみながらまったりとお湯につかることができる。外湯は、岩で作られているため、外とは全く別な雰囲気になっている。



サウナ室

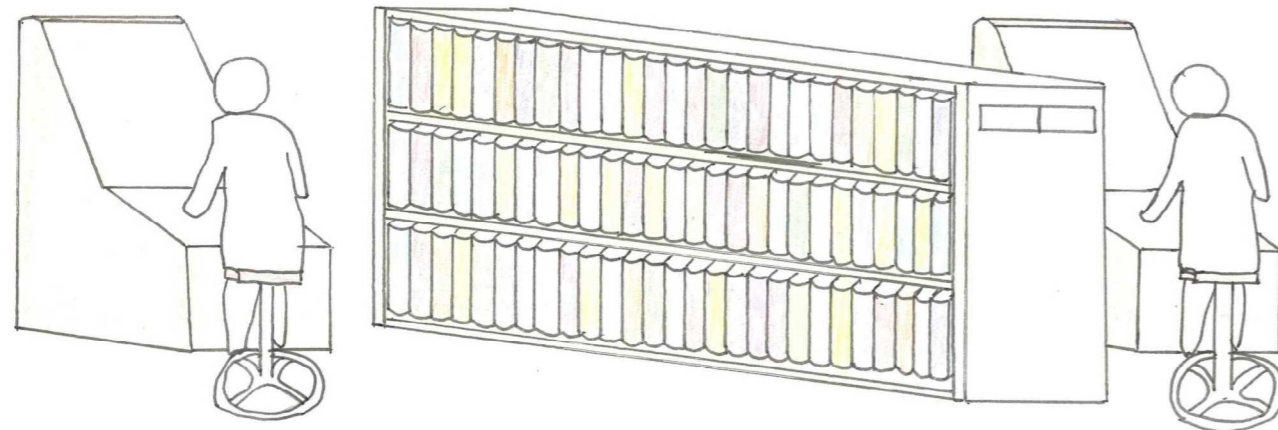
サウナ室には、多くの座席を設け、たくさんの人を収容できるようにした。サウナ室内の温度は、約100℃で、汗を流してスッキリしながら本を読むことができる。また、塩を設けることで、塩を体に塗り、さらに発汗効果をうながし、さらにスッキリしながら本を読むことができる。

ゲーセン図書館



コンセプト

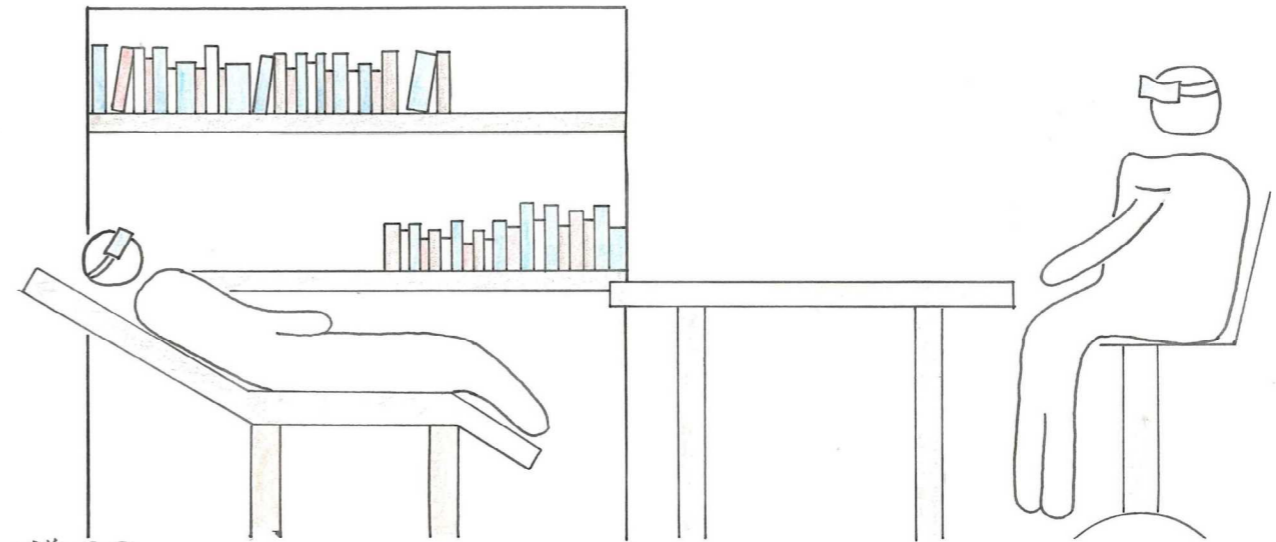
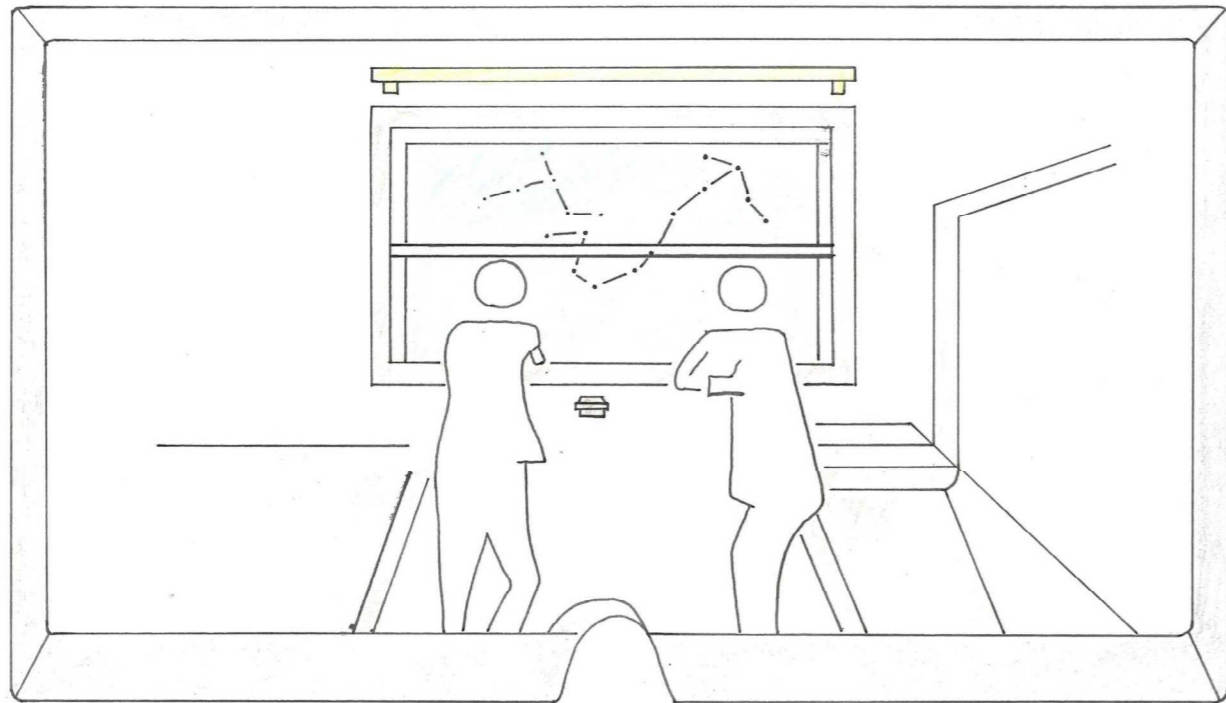
ゲーセン図書館を提案する。最近の図書館は利用者が減少しつつある。そのため、ゲームセンターを使ってゲーム好きの人々を集められないかと考えた。ゲーセンにあるメダルゲームを使ったもので、獲得したメダルの枚数で借し出し期間と借し出し量を決め、メダルの枚数が多ければ増えるようにする。また、ゲームもただのゲームではなくその図書館にある本のジャンルにあったゲームにして、本とゲームの関係性を持たせるようにする。本棚を壁のようなものの代わりにして、1つのジャンルのスペースを本棚で分けるようにする。



- ・この図書館専用のアプリを使い貯めておきたいメダルを記録できるようにして次回以降に使用したり、貯めたりできるようにする。
- ・本棚でゲーム1つ1つのジャンルをわけるとジャンルの場所を何のジャンルかわかりやすくする
- ・本棚やゲーム機は多く置くようにする。

VRで楽しむ本の世界

VRの画面イメージ図



- 説明①
- ・座ったり、寝転がったり自分の好きな姿勢で楽しめる。
 - ・普通に読める本も置かれておりVRを使わなくても楽しめる。

イメージ

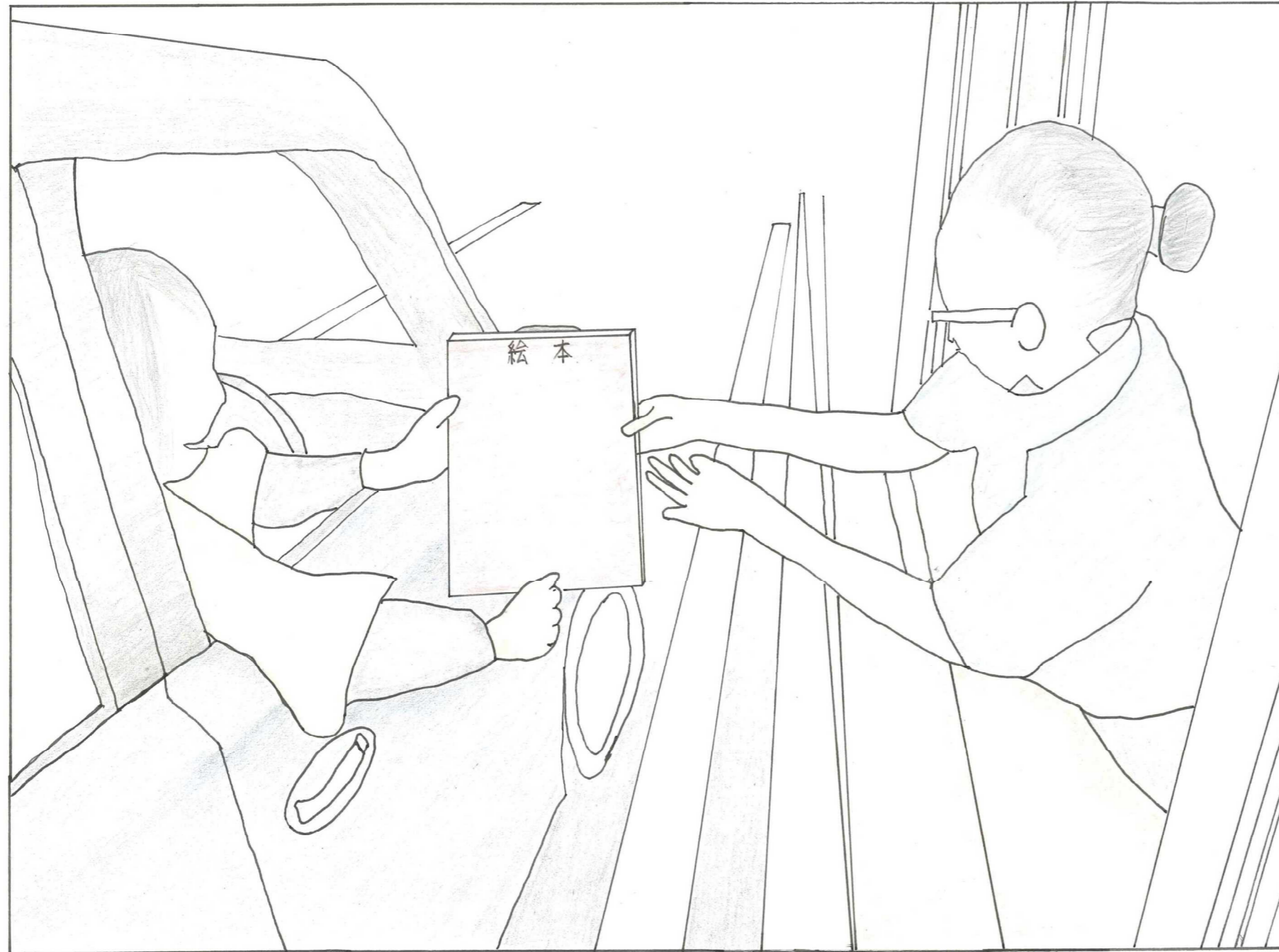


- 説明②
- ・VRを着けている人同士がぶつからないように個室を設ける。
 - ・場面ごとに音楽や音声が流れ、登場人物になったような気分を味わえる。

コンセプト

現代の図書館の課題は、利用者が少なく静かすぎることに課題だと考えた。そこで私は、VRを使った新しい図書館を提案する。VRを使って自分自身が本の世界に入りながら本を読むことでより本の内容を詳しく知れると考えた。また、子供も好きな物語の世界に入りながら本を読むことで登場人物になった気分を味わえるため今まで以上に楽しく本を読むだろう。この図書館を利用して楽しく本を読み今まで以上に利用者が増えてほしい。

ドライブスルー図書館



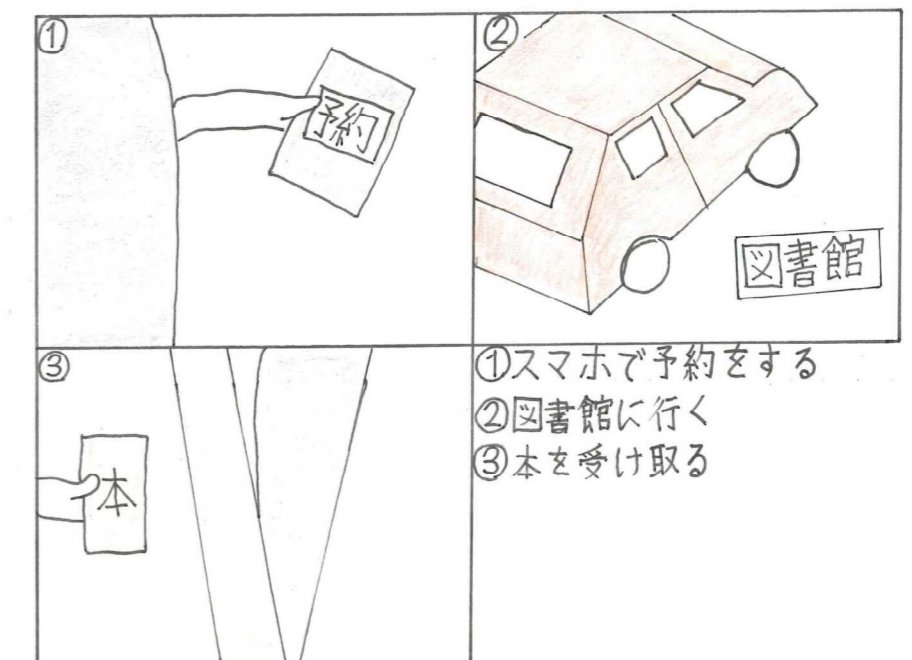
コンセプト

私は、ドライブスルーで本が借りられる機能を提案する。
 この機能は、新型コロナウイルスの影響を受けずに本を借りられるものだ。本を借りることはもちろん、本を返却することも可能だ。私は、この状況でもだれでもどこにいても本を借りられる機能を考えた。
 新型コロナウイルスが収束した後もそのまま利用しつづけることが可能である。

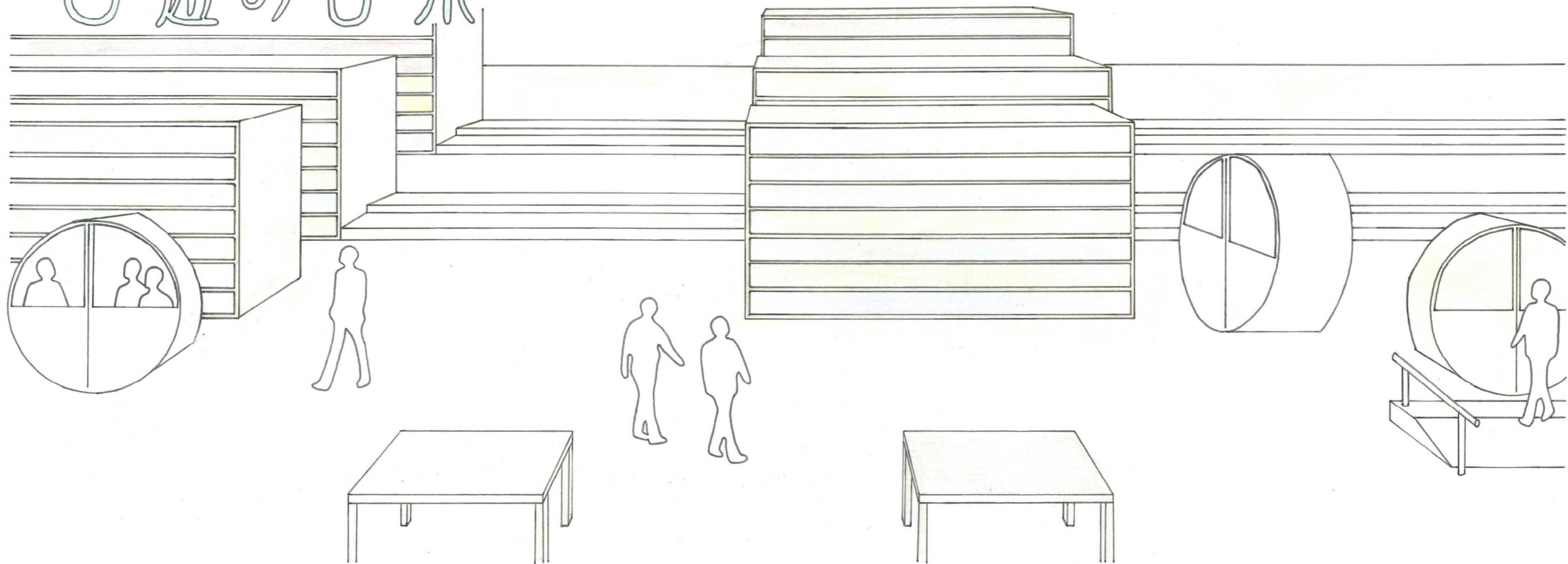
利用可能時間

- 平日
8時00分～22時00分
- 土日・祝日
9時00分～21時00分

仕事に行く人のために平日は、土日よりも早く利用できるようにした。
 この時間内であればだれでも利用可能だ。



回遊の書架



既存のコロナ禍という状況で図書館を利用することは、他者との接触の機会をつくり、コロナ感染のリスクを高めてしまうことになる。だから、利用者がもっと他者と接触する機会を減らして利用できるようにしたいと考えた。

そこで、ゴンドラのある図書館を提案する。図書館内にゴンドラをつくり、移動手段として利用すれば、他者との距離を保ちながら移動できる。また、歩いての移動ではなくなることで移動中の読書が可能になり、より多くの時間読書が楽しめるようになる。

この図書館でコロナ感染のリスクを減らし、読書を楽しむ時間を増やして欲しい。

